

玉川地域



■面積: 15.820km²

■人口

| | 平成26年 (2014年) | | 推 計 | |
|--------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| | 区全体 | 地域 | 平成30年 (2018年) | 平成35年 (2023年) |
| 総 数 | 867,552人 | 215,139人 | 215,037人 | 219,385人 |
| 年少人口 (0～5歳) | 42,699人 (4.9%) | 11,442人 (5.3%) | 11,453人 (5.3%) | 11,304人 (5.2%) |
| 年少人口 (6～14歳) | 57,378人 (6.6%) | 15,409人 (7.2%) | 16,133人 (7.5%) | 17,500人 (8.0%) |
| 生産年齢人口 (15～64歳) | 597,907人 (69.0%) | 146,633人 (68.1%) | 143,177人 (66.6%) | 145,028人 (66.1%) |
| 高齢者人口 (65歳～) | 169,568人 (19.5%) | 41,655人 (19.4%) | 44,274人 (20.6%) | 45,554人 (20.8%) |

※平成26年1月1日現在の住民基本台帳人口及び世田谷区
将来人口の推計(平成26年2月)

※推計値は表示単位未満を四捨五入しているため、総数と年齢
階層別人口の合計が一致しない場合がある。

地域の特性

地域のなりたちと姿

玉川地域は区の東南部に位置し、面積は15.820km²と5地域の中で最も広いエリアです。地域には玉川通り、目黒通り、環状8号線の幹線道路が通っています。鉄道は、田園都市線、大井町線、東横線、目黒線の各路線が通っており、二子玉川、用賀、等々力などの各駅を起点とするバス交通網とあわせて、地域の公共交通サービスを担っています。

多摩川沿いの台地には、石器時代・古墳時代の遺跡が分布しており、東京都指定史跡の野毛大塚古墳や区指定史跡の上野毛稲荷塚古墳などがあります。

早くから民間による宅地開発や玉川全円耕地整理事業などが行われたことで、地域の約87%に都市基盤が整い、都市近郊の住宅市街地として発展してきました。また、多摩川や等々力溪谷、国分寺崖線などに豊かな自然が多く残っており、「多摩川風致地区」として、都市における良好な自然的景観の保全に努めています。

駒沢オリンピック公園や兵庫島公園、玉川野毛町公園、二子玉川公園など、大規模な公園が多くある一方、区民が気軽に憩うことができる身近な広場が不足している地区もあります。

近年では、二子玉川駅周辺で再開発事業が進められ、区や玉川地域における交流の一大拠点、東京の西の玄関口として発展しています。また、目黒通りから多摩川をまたぐ(仮称)等々力大橋の整備も予定されており、都市間の連携強化や神奈川方面への道路交通網のさらなる向上が期待されています。

暮らしの姿

玉川地域の人口は、平成26年(2014年)1月1日現在、約21万5千人です。今後10年間は緩やかな増加傾向にあり、平成35年(2023年)には約21万9千人になる見込みです。また、年少人口の割合は12.5%と区の平均より高く、高齢者人口は19.4%で区の平均とほぼ同じ割合となっています。

地域では、高齢者の方や子育て中の方など、住民同士のグループによる地域支えあい活動が活発に行われています。今後、高齢者人口の増加や子育て支援のニーズの高まりに対応するため、区民・地域の活動団体・事業者等との連携、協力による地域福祉の充実が求められています。

みどり率は26.48%と区の平均をやや上回っており、都市農地も比較的多くあります。しかし、近年では相続等による農地の転用や土地の細分化等が進み、みどりが年々減少する傾向にあります。そのため、豊かな自然や農地の保全、新たなみどりの創出を進めるとともに、これまで形成されてきた良好な街並みに配慮した建築計画の誘導や宅地規模の適正化等への取組みが必要となっています。

玉川通りや環状8号線等の幹線道路沿道においても、建築物の建て替えや更新が進んでおり、幹線道路に相応しい土地利用と住環境のバランスが取れたまちづくりが課題となっています。

大井町線等の沿線では、踏切遮断による交通渋滞の発生や地域の分断、踏切事故の危険性など、さまざまな問題を抱えており、その解決に向け、関係部署と連携した取組みを進めていく必要があります。

にぎわいと地域の活動

地域の事業所は平成21年(2009年)7月1日現在、約6千3百か所、従業者数は約7万人であり、二子玉川や用賀には大規模な商業店舗やオフィスが集積しています。

各商店街では、地域コミュニティの場として機能するとともに、「用賀サマーフェスティバル」や「尾山台フェスティバル」など、多世代が交流するさまざまなイベントが行われ、まちに活気が生まれています。

また、地域住民によるイベントとして、奥沢地区の「新春地区まつり」、九品仏地区の「新春もちつき大会」、等々力地区の「おどろきとどろきまつり」、上野毛地区の「新春マラソン大会」、用賀地区の「ふれあいラリーまつり」、深沢地区の「さくらまつり」などが行われ、住民相互の交流を図る場となっています。加えて、東京都無形民俗文化財である浄真寺のお面かぶりや奥澤神社の大蛇のお練りなど、歴史ある伝統的な行事も地域に定着しており、大きなにぎわいをもたらしています。

地域には、東京23区唯一の渓谷で、東京都指定名勝の等々力渓谷があり、身近で自然に触れ合える場所として、区内外から多くの人を訪れます。また、五島美術館や宮本三郎記念美術館、長谷川町子美術館などの文化施設も数多くあります。

各地区では東日本大震災以降、地域防災力の向上と防災意識の高揚をめざし、学校区域単位の避難所運営訓練等に取り組んでいます。また、地域住民の組織的な防災活動として、防災区民組織によるポンプ操法訓練や防災普及活動も行われています。さらに、町会・自治会等では、災害時要援護者支援に関する協定の締結や防犯活動(安全パトロール)を積極的に行う等、地域の安全・安心のための活動が盛んに行われています。

まちの将来像

地域で育む安心・安全と笑顔のまち

- 子どもから高齢者までの幅広い世代による地域活動への参加・参画を促すなど、地域コミュニティを活性化するための支援やしきみづくりに取り組みます。
- 地域活動や地域交流のための区民利用施設の改修等を計画的に進めます。
- 町会・自治会や民生・児童委員、社会福祉協議会、青少年地区委員、地域のNPO等と連携・協力し、地域保健福祉や健康づくりを推進します。
- 地域の特性を活かし、次世代を担う子どもたち一人ひとりが健やかに育つことができるまちづくりを進めます。
- 防災訓練や避難所運営訓練等、地域住民による災害対策の活動を支援し、地域防災力の向上と防災意識の高揚を図ります。
- 地域の大学や事業者等との連携を進めることにより、災害発生時の対策を強化するとともに、安全な市街地の形成等の防災街づくりを推進します。

国分寺崖線や等々力溪谷などの自然豊かな住みよいまち

- 「世田谷のみどりの生命線」である国分寺崖線や等々力溪谷等、玉川地域の豊かな自然の保全に取り組みます。
- 社寺林や屋敷林など、地域の歴史を伝える貴重なみどりの保全・継承に努めます。
- 瀬田農業公園の整備等により農業文化の継承や地域緑化を進めるとともに、地域に残る貴重な農地の保全に努めます。

- 二子玉川公園や(仮称)上用賀公園等、特色ある公園の整備により、新たなみどりの創出を推進します。
- これまで形成されてきた良好な住環境を守るとともに、地域の生活環境や特性を踏まえながら街づくりを進めます。

にぎわいと元気あふれる魅力的なまち

- 商店街や地域団体、区民等による各種イベントを支援し、各地区のにぎわいやコミュニティのさらなる活性化を図るとともに、子どもから高齢者まで多世代が交流できるまちをめざします。
- 神社仏閣、美術館等の豊富な歴史・文化資産を活かし、まちの魅力を高めていきます。
- 日常的に文化・芸術に触れることができる環境を活かし、まちの活性化を図ります。
- 二子玉川駅周辺地区については、にぎわいのあるまちなみを活かし、駅の東側と西側の一体的な街づくりに取り組むことにより、自然環境、暮らし、にぎわいの調和がとれた魅力あるまちをめざします。
- 大井町線等の沿線では、踏切などによる問題の解決をめざすとともに、安全で活気のある街づくりを推進します。

地区ビジョン

用賀地区

みどりの多い、支えあい・助け合いのある
心豊かで安全なまちをめざして

深沢地区

笑顔であいさつを交わすみどりあふれるまち

等々力地区

郷土愛あふれる活力あるまちへ
～みずと緑と伝統を核として～

上野毛地区

互いに支えあえるまちづくりをめざして

九品仏地区

郷土愛を育み、より安全・安心で、人と人とのつながりのあるまちへ

奥沢地区

子どもからお年寄りまで みんながいきいきと安全で安心して暮らせる
絆に結ばれた支え合いのまちをめざして



地区におけるまちづくり活動の目標〈地区ビジョン〉

玉川

奥沢地区〈東玉川、奥沢〉

子どもからお年寄りまで みんながいきいきと安全で安心して暮らせる 絆に結ばれた支え合いのまちをめざして

幅広い世代の方々がいきいきと暮らせるように、子育て、高齢者福祉、健康づくりなどの様々な自主活動を継続・充実させていきます。

また、要援護者への支援体制と地域の絆づくりに寄与する事業に取り組めます。

九品仏地区〈玉川田園調布、奥沢〉

郷土愛を育み、より安全・安心で、人と人とのつながりのあるまちへ

次世代に、より住みやすい生活環境を残すために、ふるさと意識の向上に向けた啓発を図りながら、幅広い交流をすすめ、地区住民が少しずつ力を出し合う、災害に強いまちづくりを進めます。

等々力地区〈玉堤、等々力、尾山台〉

郷土愛あふれる活力あるまちへ
～みずと緑と伝統を核として～

緑や自然、伝統を尊び継承していく活動を引き続き推進するとともに、幅広い年代の方々が協働して、老若男女を対象とする多様なまちづくり事業を展開し、郷土愛あふれ活力あるまちを持続させていく土台をつくります。

上野毛地区〈上野毛、野毛、中町〉

互いに支えあえるまちづくりをめざして

地域活動に積極的に取り組んでいる区民を中心に、地区の様々な世代の方がお互いに地区の助け合い・支えあい活動が担えるようめざします。

また、自助・共助の一端を担ってもらえるような体制づくりに取り組んでいきます。

用賀地区〈上用賀、用賀、玉川、瀬田、玉川台〉

みどりの多い、支えあい・助け合いのある心豊かで安全なまちをめざして

青少年育成事業を通じて、幅広い世代の交流を図り、その輪を広げていくとともに、災害発生時に住民が自主的に活動していくための整備や、あんしんすこやかセンターと連携して安心して住み続けられるまちづくりを行います。

深沢地区〈駒沢、駒沢公園、新町、桜新町、深沢〉

笑顔であいさつを交わすみどりあふれるまち

住民同士が笑顔であいさつを交わし、世代間の交流が促進され、地区の問題を一緒に考え解決を図っていけるような地区をめざします。

また、地区の「安全安心」と「緑化と緑地の保全」活動への理解と協働を呼びかけていきます。



玉川総合支所からのぞむ町並み



等々力溪谷(秋)



等々力溪谷(冬)



朝市の様子

砧地域



■面積: 13.566km²

■人口

| | 平成26年 (2014年) | | 推 計 | |
|--------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| | 区全体 | 地域 | 平成30年 (2018年) | 平成35年 (2023年) |
| 総 数 | 867,552人 | 156,425人 | 159,113人 | 164,155人 |
| 年少人口 (0～5歳) | 42,699人 (4.9%) | 8,922人 (5.7%) | 8,853人 (5.6%) | 8,918人 (5.4%) |
| 年少人口 (6～14歳) | 57,378人 (6.6%) | 13,223人 (8.4%) | 14,033人 (8.8%) | 14,552人 (8.9%) |
| 生産年齢人口 (15～64歳) | 597,907人 (69.0%) | 103,679人 (66.3%) | 103,317人 (64.9%) | 106,736人 (65.0%) |
| 高齢者人口 (65歳～) | 169,568人 (19.5%) | 30,601人 (19.6%) | 32,911人 (20.7%) | 33,949人 (20.7%) |

※平成26年1月1日現在の住民基本台帳人口及び世田谷区将来人口の推計(平成26年2月)

※推計値は表示単位未満を四捨五入しているため、総数と年齢階層別人口の合計が一致しない場合がある。

地域の特性

地域のなりたちと姿

砧地域は区の西部に位置し、主に住宅地が広がる台地と、農地と住宅が混在する多摩川沿いの平地からなる地域です。台地と平地の境には、貴重な湧水や植物、樹林地を持つ国分寺崖線が広がるみどりとみずが豊かな地域です。

地域内にはみどりと調和した良好な住宅地が広く分布し、世田谷区の代表的なイメージを形成しています。しかし、近年は社宅の廃止や事業所の移転等により大規模な集合住宅も増えています。

野川や仙川の周辺では、紀元前の集落跡や古墳等、多くの埋蔵文化財が発掘されています。また、喜多見地区周辺は、江戸初期に喜多見藩二万石がおかれ、現在の東京23区に該当する区域内では唯一といわれる大名の陣屋が存在した地区であり、慶元寺や氷川神社を始め、歴史と農村文化の名残をとどめる神社・史跡や伝統芸能等の文化遺産も多くなっています。

大正の終わりに成城学園の立地を契機として誕生した成城は、当初より計画的なまちづくりが行われ、にぎわいと落ち着きを併せ持つ「学園のまち」として洗練された雰囲気をもって発展してきました。

比較的古くから大学や映画撮影所、研究所があり、また、近年では世田谷美術館が立地するなど教育・文化施設が多く存在する創造的・文化的環境の高い地域でもあります。

暮らしの姿

砧地域の人口は、平成26年(2014年)1月1日現在、約15万6千人で大規模敷地の土地利用転換等により人口が増加の傾向にありますが、人口密度は他地域と比べて最も低くなっています。年齢構成は、区の平均と比較して乳幼児と青少年人口が多く、従前は高齢者の割合が低くなっていましたが、近年は高齢化率の上昇が著しく区の平均と同じ割合になっています。10年後の将来人口予測では、人口の伸びが一番大きい地域でもあります。

砧公園など大規模な公園が立地し、住民一人あたりの公園面積は区内5地域の中で最も広く、地域のみどり率も30%を超え最も高くなっています。また、区内の生産緑地の約4割が砧地域に存在し、都市化の進展にもかかわらず多くの農地が残されているなど、みどりとみずの豊かな環境に恵まれています。しかしながら、みどり率、農地面積ともに漸次減少傾向にあり、みどりの創出や農地の保全が求められています。

また、小田急線については、喜多見駅から梅ヶ丘駅間の連続立体交差事業が終了しましたが、駅前広場や側道については引き続き整備が進められています。道路・交通環境の面では、環状8号線が南北に通っているものの、地域内の道路ネットワークはまだ十分に形成されておらず基盤整備が不十分な状況です。コミュニティバス路線が、地域の交通機関として大きな役割を担っています。

地域の南西部では、東京外かく環状道路の建設が始まっており、今後の地区の変化を見据えた街づくりが求められています。

にぎわいと地域の活動

小田急線の千歳船橋駅から喜多見駅までの各駅周辺には、ウルトラマン商店街をはじめ地域の特性に合った個性的な商店街があり、区民の生活を支えています。

また、農地では野菜を中心に様々な農作物が作られており、地域内の多くの直売所等で販売されるなど地産地消の農業が展開されています。

岡本公園民家園や次大夫堀公園民家園では、往時の世田谷の農村風景と生活環境などを再現し、四季折々に様々な催し物を行い、現代に生きる文化財として注目を集めています。

昭和53年(1978年)から開催されている「たまがわ花火大会」は、夏の風物詩として定着し、多くの人びとに親しまれ区民の「ふるさと」意識と「区民相互の連帯」意識の醸成に役立っています。

砧地域では、住民が中心となり、文化創造や福祉につながる活動、環境を守り育てる活動など住民主体のまちづくり活動が盛んに行われています。特に、町会・自治会等による高齢者の支え合い活動が多くの地区で行われる等、区民活動がますます活発になっています。また、地域の絆や区民の防災力を高める活動も多くなっています。

「祖師谷ふるさとフェスティバル」や「成城さくらフェスティバル」、「船橋ふれあいまつり」、「喜多見地区区民まつり」、「砧地区緑化まつり」等地区ぐるみの祭りが定着し、住民相互の交流も活発に行われています。

まちの将来像

みどりのみずと農の豊かな 砦の原風景を未来に引き継ぐまち

- 国分寺崖線や野川、仙川、多摩川など、みどりのみずの保全に努めるとともに、自然を守り育成する良好な住環境に恵まれたまちづくりを総合的に推進します。
- 公共施設の緑化や民間住宅等の建築の際の緑化指導を進め、みどりを創出するとともに、みどりのみずのネットワーク形成を図る等、質の向上に努めます。
- みどりの育成に必要な地下水を涵養し、貴重な湧水地の保全を図ります。
- 地域に分布する都市農地を、ふれあいのある農業の拠点とするとともに、農のある風景や風土を地域の資源として保全していきます。
- 東京外かく環状道路と周辺のみどりのみずが調和したまちづくりをめざします。

歴史と伝統を大切に 文化とにぎわい・交流の元気のあるまち

- 「田園都市」「学園都市」として、人・自然・文化の調和のとれたまちづくりをめざすとともに文化遺産、文化施設、運動施設や公園等、地域の資産や資源を継承・活用した地域特性あふれるまちづくりを推進します。
- 地域のまちづくり活動を支援し、大学や事業者等の地域活動とも連携、交流して、協働によるふれあいとにぎわいのあるまちづくりを推進します。
- 地域と学校の交流を積極的に推進し、小・中学校施設を地域住民のさまざまな活動の場として活用していきます。

- 多様な学習意欲に応える生涯学習の環境づくり・プログラムづくりを行い交流の場を広げます。
- 地域や地区の生活の拠点として、商店街におけるにぎわいと元気あふれるコミュニティの形成を推進します。

あらゆる世代が健やかでこころふれあう 災害に強い安全・安心のやすらぎのあるまち

- 支援を必要とするすべての人が、身近な地域で相談し、適切な支援が受けられる地域包括ケア体制の構築に向け、率先して取り組みます。
- 先駆的に進めてきた医療・介護・福祉の連携を基盤として、地域の絆を深め、顔の見える関係づくりを進めます。
- 地域で安心して子育てができるよう、子育て相談や各種健診、児童虐待予防対策を充実させるとともに、すべての子ども・若者がいきいきと学び暮らせる環境を整備します。
- 区民一人ひとりがより良い生活習慣を身につけ、運動をはじめとする身体活動による生活習慣病予防や食育等、健康づくりの活動を通じて、こころ豊かな暮らしを育むまちをつくります。
- 地域を支える道路ネットワークの整備を始めとする基盤整備により、安全性や利便性を向上させるとともに、地震や水害など災害に強い安全・安心なまちづくりに努めます。
- 防災訓練や避難所運営訓練等を通じて地域住民の防災意識の高揚と防災行動力の向上に努め、地域全体の防災力を高めます。

地区ビジョン

祖師谷地区

笑顔あふれる支えあいのまち 祖師谷

船橋地区

みんながつくる賑わいと活気のあるまち 船橋

成城地区

みどりと文化の薫る学園都市 成城

喜多見地区

歴史と自然を守り子ども達で活気あふれるまち 喜多見

砧地区

まちを知り、まちを守り、次代を育み、未来を語り合う交流の輪が広がるまち 砧

砧総合支所

地区におけるまちづくり活動の目標〈地区ビジョン〉

砧

祖師谷地区〈祖師谷、千歳台〉

笑顔あふれる支えあいのまち 祖師谷

地区の中心を南北に走る祖師谷通りには活気あふれる商店街があります。この賑わいをより発展させ、地区に住む誰もが笑顔で行き交うことができる支えあいのまちの実現に取り組みます。

成城地区〈成城〉

みどりと文化の薫る学園都市 成城

成城学園と共に発展してきた成城のまち。そこに息づく様々な歴史や自然・文化的資産の特色を生かし、協働に基づく魅力あるまちづくりの推進を図ります。

船橋地区〈船橋、千歳台〉

みんながつくる賑わいと活気のあるまち 船橋

「森繁通り」の活性化や駅前広場の活用による周辺商店街の発展や「船橋の小径」等地区名所のPR、地区のおまつりやイベント、「子どもぶんか村活動」をはじめとする船橋地区独自の活動等の更なる充実により、賑わいと活気あふれるまちをつくります。

喜多見地区〈喜多見、宇奈根、鎌田〉

歴史と自然を守り子ども達で活気あふれるまち 喜多見

喜多見地区の特色であるみどりとみずの豊かさと、次大夫堀公園や二子玉川緑地などで行われている自然とのふれあい活動などをより広げ、次代を担う子ども達が元気に集い、健やかに育つまちをつくります。

砧地区〈岡本、大蔵、砧、砧公園〉

まちを知り、まちを守り、次代を育み、未来を語り合う交流の輪が広がるまち 砧

砧・大蔵・岡本、それぞれのまちの伝統・文化やさまざまな資産を大切にし、尊重しあい、助け合い、健やかな未来を語り合えるまちをつくります。



次大夫堀公園の田植え



たまがわ花火大会



国分寺崖線と野川

烏山地域



■面積:7.720km²

■人口

| | 平成26年 (2014年) | | 推 計 | |
|--------------------|---------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| | 区全体 | 地域 | 平成30年 (2018年) | 平成35年 (2023年) |
| 総 数 | 867,552人 | 113,833人 | 113,294人 | 115,782人 |
| 年少人口 (0～5歳) | 42,699人 (4.9%) | 5,871人 (5.2%) | 6,007人 (5.3%) | 6,005人 (5.2%) |
| 年少人口 (6～14歳) | 57,378人 (6.6%) | 7,512人 (6.6%) | 8,002人 (7.1%) | 8,934人 (7.7%) |
| 生産年齢人口 (15～64歳) | 597,907人 (69.0%) | 77,328人 (67.9%) | 74,893人 (66.1%) | 76,203人 (65.8%) |
| 高齢者人口 (65歳～) | 169,568人 (19.5%) | 23,122人 (20.3%) | 24,391人 (21.5%) | 24,639人 (21.3%) |

※平成26年1月1日現在の住民基本台帳人口及び世田谷区
将来人口の推計(平成26年2月)

※推計値は表示単位未満を四捨五入しているため、総数と年齢
階層別人口の合計が一致しない場合がある。

地域の特性

地域のなりたちと姿

烏山地域は区の北西部、武蔵野台地のほぼ南端に位置し、仙川、烏山川の流れがつくる小さな起伏はあるものの、地域全体は比較的平坦な台地となっています。烏山地域を東西に走る甲州街道は、江戸五街道の一つで、烏山は高井戸宿と布田宿の中間、「間(あい)の宿(しゅく)」(休憩用の宿)として賑わい、街道両側には整然と地割りされた集落が形成されていました。

大正4年(1915年)の京王線開通以降、郊外住宅地としての開発により人口が増加し、駅周辺を中心に発展し続けていますが、現在も、農地や宅地のみどころもかきこに見られ、武蔵野の自然豊かな風情が残っています。

大正8年(1919年)、東京・巣鴨より敷地面積61,000坪に開放病棟や作業場のある東京府松澤病院(現：東京都立松沢病院)が上北沢に移転しました。現在、病院の建て替えにあわせ地域住民の要望と関係機関との連携により、憩いの空間として將軍池広場の開設や周辺道路の整備が進められています。

北烏山は、関東大震災後、都心部から移転してきた寺院が集まった「烏山寺町」と呼ばれる地域があります。また、芦花公園駅周辺は、文豪徳富蘆花が移り住んだ「蘆花恒春園」や区立の文学館もある、歴史と文化の香り高い地域です。

平成3年(1991年)4月、地域行政制度発足により烏山総合支所は、現在の北北沢地区、上祖師谷地区、烏山地区の3地区をエリアとして開設されました。さまざまな伝統行事などを通じて、住民と地域、行政が気軽に話し合い、協働してまちづくりに取り組んでいる住民パワーあふれる地域です。

暮らしの姿

烏山地域の人口は、平成26年(2014年)1月1日現在で、約11万3千人、面積は7.720km²と5地域のなかで最も人口が少なく面積も最も小さくなっています。人口密度は駅周辺が高いものの、地域全体では区内平均を若干下回り、比較的ゆったりとした環境です。人口構成は、高齢者の割合が2割を超え、今後も緩やかに高齢化率は上昇し、中でも高齢者単身世帯の大幅な増加が予想され、地域の見守り・支えあいネットワークが必要です。

また、公的集合住宅が多く、今後、建替えの予定もあるため、転出転入の増加、生産年齢人口層の単身世帯や子育て世帯の増加により人口は伸び続ける見込みです。多世代の住民や新たな転入者も参加したまちづくり・防災活動等を通じた地域交流が求められています。

東西に京王線が通り、都心へのアクセスに便利ですが、開かずの踏切により南北の交流・交通が遮断され、不便をきたしています。今後の京王線連続立体交差事業に伴い、総合的な交通網の充実や駅周辺のまちづくりが求められています。また、広域的な幹線道路として甲州街道と環状8号線が整備されていますが、地域全体の体系的な生活道路の整備が求められています。

みどり率は、区の平均値を若干上回る25.8%ですが、今後もみどりの保全・創出を進めていく必要があります。貴重な農地のみどりを減らさないよう、保全及び適切な土地利用の誘導は重要な課題です。南部には区民憩いの場である蘆花恒春園や祖師谷公園、松沢病院脇の將軍池広場などがありますが、一人当たりの公園面積は、区全体の平均を下回っており、充実していく必要があります。

にぎわいと地域の活動

商業地は、京王線駅周辺および甲州街道等の幹線道路沿線にみられます。特に、千歳烏山駅周辺では身近な日用品店や飲食店等が多く、生活の利便性に加えて烏山区民センターとその前の広場を利用した商店街や住民による地域のイベントが積極的に開催されるなど、年間を通し常に賑わいが見られます。

また、各地区では、町会・自治会や商店街、さまざまな地域活動団体により、住民相互のコミュニティや絆づくり、さらには賑わいのあるまちづくりを目指した多種多様なイベントが活発に開催され、地域力の向上に寄与しています。

みどり豊かな地域の農地は、新鮮な農産物の供給源であるとともに、区民が土に親しむ機会となる区民農園や、気軽に収穫体験できる農園が多くあり、好評を得ています。

地域住民が中心となった環境を守る活動や環境美化活動、放置自転車クリーンキャンペーンや上北沢駅周辺の路上禁煙地区の取組み等も積極的に行われています。

現在、烏山地域は、バス路線のない交通が不便な地域も散在するため、自転車の利用者が多く、その対応として利用マナーや安全教育等の活動が活発です。

さらに、ミニデイやいきいきサロンなど地域の自主グループが、高齢者の見守りや支えあいを行うネットワーク活動「からすやま 共に支えあう いきいきネット」は、世田谷区内でも先駆的な取組みとなっています。

まちの将来像

地域がつくる、 活気あふれる賑わいと笑顔のあるまち

- 京王線の開かずの踏切が解消されるため、賑わいのある商店街を中心に、南北の交流と人びとが集う魅力あふれるまちをつくりまします。
- 伝統ある地域のまつりとともに、区民主体の様々なイベントを大きく発展させ、豊かなコミュニティに支えられた活気あふれるまちをめざします。
- 地域の困りごとは、地域自らで解決できるよう、自助・共助のコミュニティづくりを支援し、相談窓口の連携を図るなど、心の通うまちをつくりまします。
- 地域活動の核となる町会・自治会について、転入者や若い世代が積極的に参加するしくみづくりと、経験豊富なベテランとの調和のとれた活動が活発に行われるよう支援します。
- あらゆる世代、地域の団体、さらには関係機関が、実践的な防災訓練等を進め、防災力の高いまちをつくりまします。

武蔵野の面影を残す

自然と文化の落ち着いた中で 安心と安全をともにつくるまち

- 京王線連続立体交差化に伴う駅前周辺の整備にあたっては、人の交流・コミュニティづくりを視点を、周辺道路等の整備やバス路線導入に向け、総合的な街づくりを進めます。
- 地域の軸となる都市計画道路、主要生活道路等の整備を総合的に推進し、利便性

の向上とともに、災害時における延焼の遮断や遅延、緊急車両の通行、避難路確保等、災害に強い街づくりを進めます。

- 大規模な利用の転換が見込まれる土地や公共住宅団地の建替えについては、周辺の自然環境との調和や道路やコミュニティ拠点となる広場の整備等を働きかけていきます。
- 地域に残された貴重な農地や屋敷林を保全するとともに、住宅敷地等の緑化など都市景観の美しいまちづくりを区民、事業者とともにめざします。
- 旧甲州街道や烏山寺町のたたずまいを活かし、宙水の保全並びに蘆花恒春園や文学館を核とした歴史と文化、風土が調和した魅力のあるまちをつくりまします。

あらゆる世代がいきいきと元気で暮らせる こころのふるさと烏山

- 町会・自治会、あんしんすこやかセンターや地域社会福祉協議会、民生委員・児童委員、NPO等の地域の活動を通し、子ども、障害者、高齢者をあたたかく支え見守るネットワークを発展させます。
- 日頃から保健と福祉、医療との連携を図り、地域でいつまでも健康で安心して暮らせるよう、こころとからだの健康づくりや相談支援の充実を図ります。
- 子どもが健やかに育ち、住んでいる烏山に誇りが持てるよう、地域と保育園、児童館、図書館、学校、事業者等が協力・連携した育ち、遊び、学ぶしくみをつくりまします。

- ごみの減量化や雨水利用、自然エネルギーの有効活用、スマートシティへの取り組みなど環境保護への区民活動を支援し、地域の環境意識を高めます。
- 大学等と連携した身近な地域でのレクリエーションや文化や歴史に造詣の深い地域住民による生涯学習の充実など、健康で豊かな生活を支援します。

地区ビジョン

烏山地区

手を取り合って、楽しく 地域の絆を広げよう 烏山
～継続的な地域活動が導く地域のコミュニケーション～

上北沢地区

自分たちのまちは自分たちで守り、育てていくあったか上北沢
～お互いが顔見知りになりみんなで力を合わせてまちを守ろう～



★
烏山総合支所

上祖師谷地区

音楽と花と文学と笑顔があふれるまち 上祖師谷・粕谷
～誘いあい、知りあい、支えあいの地域の絆～

地区におけるまちづくり活動の目標〈地区ビジョン〉

烏山

上北沢地区〈上北沢、八幡山〉

自分たちのまちは自分たちで守り、育てていくあったか上北沢

～お互いが顔見知りになり
みんなで力を合わせてまちを守ろう～

上北沢地区高齢者見守りネットワークや防災活動を通して、お互いが顔見知りとなるよう良好なコミュニケーションを育み、絆をさらに深めるとともに、安全・安心な地区まちづくりを広げていきます。



上祖師谷地区〈上祖師谷、粕谷〉

音楽と花と文学と笑顔があふれるまち
上祖師谷・粕谷

～誘いあい、知りあい、
支えあいの地域の絆～

蘆花恒春園と祖師谷公園に囲まれた上祖師谷・粕谷は、音楽をテーマにしたイベントや花づくりの行事が多く行われています。また、地元の文豪、徳富蘆花のゆかりの地でもあります。今後も、継続的な地域活動を通じ、誘いあい、知りあい、支えあいの絆を広げていきます。



烏山地区〈給田、南烏山、北烏山〉

手を取り合って、楽しく地域の絆を広げよう烏山

～継続的な地域活動が導く
地域のコミュニケーション～

歴史ある地元のまつりや商店街、烏山区民センター前広場を中心に広がっている賑わいや交流等を大切にしながら、新たに転入された方やNPOをはじめ、地域の様々な団体とさらに楽しく地域の絆を広げていきます。





都立蘆花恒春園



烏山地域キャラクター からびょん「烏山地域蘆花まつり」



烏山区民センター前広場「からすやま夏まつり」



上北沢の将軍池公園「自由広場」

